

アンケート結果を受けて改善したいところ 【人文社会学系】

このままでいいと思う。

授業の難易度と分量に関しては8割程度の学生が丁度良いという回答であったので、テキストの選択はまずまずであったと考える。ただし、若干名やさしいと感じた学生もいたので、今後はもっと相応しいテキストがないか検討したい。恐らく他の質問項目における否定的な回答もこの点と関わっていると思われるので、慎重に選定していきたい。

講義形式の授業は、概して演習形式のそれに比べて受講者の積極的な授業参加の様子がうかがいにくい。なぜそれを取り上げるのか理解を深めた上で入ったり、自身の頭で考える機会を設けたりすることなどによって、工夫を心掛けたい。

「教員の話し方は聴き取りやすい」という問いに対する評価が比較的低いので、授業中に学生の理解度を確認する機会を増やすなどしたい。

学生自身が自ら学べるような助言をしていきたい。

教科書を読んでくることを前提に授業を行っているが、それだけではなく、明確な課題を出して、授業でそれを問うというやり方も行わないと学生の学習時間が増えないと感じた。

外国語学習においては何がつまづきの原因になるのかという点について、学生自身が体験した事例に基づいて考察をさせることが必要だと感じた。

週当たり学習時間をみると、もう少し難度を上げて良いと思うので、次年度は、発表時の様式に工夫することとしたい。

講義(2単位)の科目において、本来の単位の条件にあたる課外学習(問15で問われるもの)がまだまだ不十分だと思われる。授業での課題の出し方を工夫して増加させたい。

改善すべき点は、2点です。

1. 発表後に、疑問点等について活発な議論をする機会が少なかったため、時間配分と事前に教授者より議論する課題を提示する等の改善が必要です。
2. グループの発表を主とし、教授者の解説が補足程度になってしまいました。この点も時間配分の改善が必要です。

「この授業で新しい考え方や知識・技能が身についた」、「学生どうして授業内容について話し合った」、「授業を受けたことで、多様な考え方ができるようになった」などの項目で平均よりも低かった。今後は、新しい考え方や知識・技能が身につくように工夫したい。

授業で扱うテキストについては、受講生にとってもう少し読みやすいものとなるよう考えていきたい。

授業の難易度について「難しい」と回答した学生が23%(13人中3人)だったので、難易度を見直したい。

国文学演習B I では、「この授業の学習目標が達成できた」の項目において、「強くそう思う」の数値が低かった。得られた学習成果について、満足度が低いものと考えられる。事前の打ち合わせ等を通して学習の成果を感じ取ることができるよう、今後の指導を改善していきたい。

「問1 この授業で、新しい考え方や技能が身についた。」や「問6 授業を受けたことで多様な考え方ができるようになった。」などで9割近くの学生が肯定的な回答(①強くそう思う、②ややそう思う)をしたことは、授業担当者としてある程度課題が達成できたと感じている。
ただ、演習形式の授業としては受講者数が多過ぎで(50名近く)、本来の演習形式の授業の醍醐味(十分な議論の豊かさ)を学生に感じさせることができなかつたことは残念である。この点については工夫もしたし、教員として反省すべきことはないのだが、もっと適正な人数での授業を行いたかつた。
あと、自由記述で「延長するのをやめてください」という意見が1件あつたが、受講者数が多く、1回の授業での発表者が自然と多くなってしまうので、時間調整が難かつたというのはあつた。時間内に終わらせるか、十分な議論の時間を確保するかの問題である。この点についても、適正な人数での演習が行われれば解消できる問題であろう。

(1)~(3)全ての授業において、もう少し、学生同士の議論の時間を確保し、考えを共有するように授業を改善していきたい。

教員と学生間の対話はできているとは思いますが、もっと学生同士の対話を促すような授業展開をするべきであつたと思います。

今回の受講者数(規模)において講義を行うことは、自身にとっては、大学の内外を問わず初のことであつた。同様の機会は、今後想定しがたいところではあるが、この経験は自身にとり貴重かつ有益であつたことは間違いない。強いていえば、1970年前後の大学における教育のあり方の議論を、再度参照しようという念を抱くに至つた。無論、今回の講義規模のほうが適切であるという認識に基づいてである。
講義への参加、そしてアンケートの回答を行ってくれた受講者各位に、心より御礼申し上げます。

授業中のグループでの話し合いにおいて、グループによっては話し合いがうまくいかなかつたという意見があつたため、改善策を考えたい。

学修目標のさらなる明確化が必要だと感じる。また、学生とのコミュニケーションにかかる方法の模索を行いたい。

難しいという意見が多かつたので、課題の難易度については再考したい。

授業のための週当たりの時間が少ないのが気になる。宿題をふやしたい。

授業で提示するスライドを精選し、学生が参加する時間を確保する。
講義式が中心だつたので、AL形式の授業を増やす。

音声学については、授業の難易度や授業内容の量が「ちょうどいい」という意見が非常に多かつたが、力をつけるという意味では、物足りないのではないかと思います。そのため、もう少し難易度を上げ量を増やすことが必要と思いますが、その分、こちらの添削にさらに時間がかかるのが悩ましいところです。
英語学演習については、受講生は文系のため、統計の内容はなじみが薄く難かつたと思います。そのため、授業内での作業をもう少し、システムティックにできるようにしていこうかと考えています。また、もう少し小テスト・小課題を行って、知識・技能の習得ができるようにしていくことを考えています。

1人で全体の講義を進めた場合はともかく、複数の教員が交替して講義した場合には学生の戸惑いもあったのか、授業評価の結果は芳しくないものになっている。
小中学校の教員となる以上、幅広く学ぶことは必要であり、この形をくずすことはできないが、より教員間の連絡を密にして、学生が聴講しやすい環境をつくっていききたいと思う。

「教員の話し方は聴き取りやすいか」という問いに対する評価が比較的低いので、英語で説明する部分が上手くいっていないのか、日本語の部分なのか、今後より詳しく調査する必要がある。また、その点をどうしたら明らかにできるのか考えたい。

授業の目標が、教育の資質／能力(授業の到達目標)のどのあたりをめざすか等について、客観的に設定できたらよかったと思う。模擬授業を行う場合、教師役の指導が中心になることが多いが、学習者役の指導をもっと充実させるべきだった。学習者役の指導というのは、「日本語学習者の間違いや理解しにくい点を予想して、間違えるなどの演技をすること」である。日本語学習者と接する経験がほとんどない学生には、とても難しいことであるが、これを考えさせることは重要で、この授業の課題となった。